

このコーナーでは、皆さんからのお便りをお待ちしています。  
どんなことでもかまいません。どしどしお送りください。広報クイズの答えもお忘れなく。

《あて先》〒861-3296 御船町役場「おたより」係 ※住所を書かなくても届きます。

《Eメールアドレス》 [kanri@town.mifune.lg.jp](mailto:kanri@town.mifune.lg.jp)

※匿名希望の場合は、氏名の横にその旨を明記してください。ペンネームでもかまいません。



イラストは  
たてに描いてね



鶴野 結衣 さん



鶴野 翔太 さん

## まちへのラブレター

### 道

路は広くきれいに整備されましたが中央分離帯や歩行者道路境界等の雑草が生い茂ると景観を損ねることになります。また、ふれあい広場の芝生の中にも雑草が多く目立つようになっています。町全体で清掃ボランティアに取り組んでみては？  
(豊秋・Oさん)

たしかに道路やふれあい広場に雑草が目立ってきています。

特にふれあい広場は、芝や樹木の成長を助けるために肥料を使っていることもあり、雑草の成長も早いようです。今後も、景観を損なわないよう定期的な草刈りや清掃を行っていきます。

また、すでにボランティアで道路や公園の草刈りなどをされている団体もありますので、その輪を広げていけたらと考えています。(都市計画係)

### 私

の住んでいる近所に猫が何匹か以前よりいます。野良猫なのか、飼い猫なのか分らないのですが、子猫も増えて、玄関に堂々と寝そべっていたり、庭は猫のフンだらけで困っています。うっかり玄関を開けていると入ってこようとしてしまいます。(辺田見Fさん)

猫は1年に2〜3回出産をし、増えていきます。

野良猫などにえさを与えてしまうと、その地域に猫が居着き、そのまま増えてしまいます。飼い猫であれば、役場からも飼い主へお話しに伺いますが、野良猫につきましては、町から猫用の捕獲器を貸し出しておりますので、必要の際はお申し込みください。

今後も、猫についての注意喚起を促していきます。(健康推進係)

## 先生の青春昔話

町内に勤務する先生に、子どもの頃の思い出を話してもらうコーナーです。

### 地域の行事でハッスル！

私の実家の裏山に、八幡宮があります。秋には例大祭、冬には寒詣(かんもうで)の行事が行われています。私は年長の頃から、ほぼ毎回、中学卒業まで参加していました。

秋祭りでは神輿行列用の衣装に心躍らせる「目立ちたがり屋」の私でした。寒詣では、皆勤賞のぜんざい目当てに、眠い目をこすりながら、早朝詣でに通いました。

今、思うと懐かしい行事ですが、地域の行事に積極的に参加していたな、と感じます。行事に関わる人のおもいに触れたり、地域の歴史に触れたり、ふるさとを大切に思ったり、よい経験でした。

子ども達にも、地域の行事にどんどん参加してほしいと思います。そして、御船を好きになってほしいですね。



高木小学校 平川 聖介 教諭  
(天草市河浦町出身)

## 文芸

### ひとひねり

#### 短歌

竿五本洗濯物を干し終えてほっと一息子らとの暮し

藤本 京子

草切れを啜ゆる仕草も一様に春の燕が巣作り始む

正宗タツ子

このようなことがあるとはボール玉位の電が降りしとニュースに

山本志満子

身の丈に生きよと亡父が言いしこと茄子の花の咲けば思えり

市川 結子

田植え待つ畦の刈り草燃え立ちて峽の棚田は煙に被わる

甲斐レイ子

刈り後に並み伏せらるる麦桿に水無月の雨容赦もあらず

金森 英子

ホトトギス三声鳴いては飛んでゆく拓卵、子育て命をかけて

北村ヤヨイ

芳香に引き寄せられて蜂の群藤の古木の白き花房

平野 文子

#### 俳句

御船春菊句会 水野つとむ選

滝しぶき光が遊び風遊ぶ

さとうともこ  
緒方 栞

滝浴びて心の乾き失せにけり

つぎつぎと降り来る竹の落葉かな

坂田志美子

眠りつ、団扇動いてをりにけり

渡辺ケイ子

吊しあるてるる坊主梅雨の宿

丹生 則子

みどり児に風やはらかき白団扇

緒方 宣子

滝しぶき浴びて心身清めらる

守田 律子

#### 肥後狂句

天狗会

話に夢中 料理も減らんクラス会

増永 笑和

ちよつと短かめ 時間ぎりぎり済む祝辞

河地 ゆき

非常事態 逆さ吊りして鮎吐かせ

林田 実花

話に夢中 バスは幾つもはってかせ

藤本 好水

意外や意外 よか大学に行つとらす

川部 呉穂

地域版 田舎料理で村おこし

吉田 楽園

#### 一般投稿

茅の輪くぐり左に右にまた左

藤原 若葉

低頭の髪に御被の小幣かな

常石 山紫

孫よりて初月給で六ヶ年の感謝の気持ピアマグカップ

宮村エツ子

朝ツ五時バイクの音で目を覚ます新聞少年ご苦労さんと

松岡 文江